

美術科

美術に興味がある人、興味が出てきた人がさらにそれを深めるにはどうしたらいいか、という観点で自分でできる学習の仕方のいくつかを紹介します。

(1) 好きな作家を見つける。

既に見つけた作家がいる人は深める。そしてさらに他の作家へと広げる。

○見つけ方、調べ方、深め方

- ・学校の図書室や、近隣の図書館で画集を鑑賞する。

図書館は「きららホール」や「伊丹市立図書館ことば蔵」、「川西市立図書館」が便利でしょう。さまざまな画集がありますが、借りられないことの多いのが難点です。

- ・テレビの美術番組を鑑賞する。主な番組は以下の通り。(H26年3月現在)

「日曜美術館」NHK Eテレ 日曜 9:00～10:00 再放送 翌週日曜 20:00～21:00

「美の壺」NHK BSプレミアム 金曜 19:30～20:30 再放送 火曜 11:05～11:35

「美の巨人たち」BS ジャパン 水曜 10:54～11:24

「ぶらぶら美術・博物館」BS 日テレ 金曜 20:00～20:54

必ずしも作家がテーマの番組ばかりではなく、この中にはグッズ、美術館そのものなど、他ジャンルがテーマの番組もあります。見識を深めてもらえたらと思います。

- ・美術館で展覧会を鑑賞する。

伊丹市には「伊丹市立美術館」「伊丹市立工芸センター」がありますが、それ以外にも近隣にたくさんの美術館があり、展覧会が催されています。ここではそれらのインターネット検索サイトをいくつか紹介します。

artscape 「今月のオススメ展覧会」 <http://artscape.jp/exhibition/pickup/index.html>

Internet Museum 「全国展覧会情報」 <http://www.museum.or.jp/modules/jyunkai/>

NHK プロモーション「美術展・展覧会」 <http://www.nhk-p.co.jp/tenran/>

- ・画集以外の書籍を読む。

実際に制作している人の著作物に興味深いものが多く、おすすめです。絶版になっているものもありますが、図書館で探して借りるか、購入するのであればアマゾンが便利です。

「赤瀬川原平の名画読本」「名画読本 日本画編」赤瀬川原平（知恵の森文庫）

展覧会に行っても何をどう観たらいいのかわカラン、退屈だという人におすすめ。

「絵の話」伊藤 廉（美術出版社）

平易にして深遠。語り口は子ども向けですが、芸術の根源的なところまで言及しています。大人になって読んでも新たな発見があります。

「風景との対話」東山魁夷（新潮社）

中学校国語の教科書にも載った名著。いったい芸術家は何を思い、何を考えて制作するんじゃ、という人はこれを読むとよい。

「四百字のデッサン」野見山暁治（河出書房新社）

作家のエッセイ。日本エッセイスト・クラブ賞受賞の名著。

(2) 調べたこと、感じたことを書いてまとめる。

さまざまな方法で作家を調べ、作品を鑑賞したら My(毎)学ノートなどにまとめてみよう。書くことによってさらに感じ方や考え方は深まっていくでしょう。

「何を見て調べたのか（書籍、展覧会、テレビ番組の名称）」、「調べたこと分かったことの概要」、「自分の感想」に分けてまとめ、読む人がわかりやすくなるように心がけることが大切です。

(3) 模写をする。

特殊な作品の鑑賞の方法として、また絵の描き方の学習法として「作品の模写」があります。絵の具を使って実際に描き写してみると、単に観るだけでは分からなかった作家の色使いや手法が分かってくることがあります。色を使わなくとも、例えば美術の教科書でお気に入りの作品があればそれを鉛筆の濃淡だけで描き写すだけでも、何か見えなかったものが見えてくるかも知れません。

模写をしたらそのコピー（実物でもいいよ）と共に感想、分かったことを My(毎)学ノートなどにまとめ、ぜひ先生に教えてあげてください。



絵：松本竣介